

親鴨 だより

2008年 5月号
第238号



地球温暖化が叫ばれて久しい今日、季節外れの気候変動や予期せぬ災害が世界を悩ませています。しかし、五月は四季の中でも活動し易く最も活気溢れる清々しい季節であります。この時期、各支部では総会も無事終了し今年度の行事のスタートを切ったわけですが、会員の皆様には益々お元気でご活躍の事と推察しております。

昨年末、京都清水寺の和尚さんが日本の世相を漢字一字で表すと「偽」と書いて「こういう字を書くのは日本人として恥ずかしい。嘆かわしい」と言われ、これが現代日本の姿だと妙に納得したものです。嘆かわしい事件の多い昨今ながら、他方1月23日には京都大学の山中伸弥教授らの研究チームが人間の皮膚細胞から、様々な臓器や組織の細胞に成長する能力を秘めた「万能細胞」を作ること成功したと発表されたこと、3月14日には戦後の宇宙開発に後れをとっていた日本だが宇宙飛行士の土井隆雄さんによって国際宇宙ステーション内に日本の実験棟「きぼう」が設置されようとしていることは「日本人として誇れる」画期的成果であり、これらに救われた気持ちになったのも確かです。山中教授は「万能細胞を作る過程での膨大な実験で、失敗の連続、やめる寸前までいった」と話されていましたが医学・宇宙夫々の分野で崇高な目的、目標があつての快挙だといえるでしょう。

目標と言えば、私はウォーキングの途中、ある大木に標語が掲げられているのを発見、その一つに「私は老人に及んでも少しずつ成長することを心掛けている」と記されてきました。人間幾つになっても、少しずつ成長を目指すために何か身の丈にあった目標を持ち、それに向かって努力することで達成感が生まれ、毎日の生活が充実してくるよう感じた次第です。

さて、IBM野洲事業所のその後の状況について少し触れておきます。昨年6月まではIBM社員は少数ながらも在籍、組織も存在していましたが、その後社員全員が他事業所への移動等により組織もなくなりました。今、野洲ではIBMの色彩を強く残しているのが野洲支部で、その役割が逆に益々高まっていると感じています。今年も親鴨会行事参加を通して再会を、そして夫々に身近な目標を立てて楽しみましょう。

野洲支部：柴原 喬